

# 体育館の“取り壊し”が物語る歴史とは

長年お世話になった体育館（ラベンダー）を取り壊すことになりました。

札幌報恩学園が中央区から上野幌へ移転したのは昭和37年の冬（同年8月10日第一期工事着工）、収容棟の他に建築された一つに体育館がありました。現在ちょうど55歳と6ヵ月目です。法人の敷地内の中で一番古い建物です。

55年間の中にはたくさんの思い出があります。私立養護学校があったので平成8年に閉校されるまで、入学式や卒業式、音楽会、学芸会、日々の教科学習（音楽や体育）に利用をしたり、朝登校すると体育館に集まり、園長先生の挨拶、歌の練習、ラジオ体操と一日の始まりがここからスタートしていました。

昔、居住棟と体育館がつながっており、利用者様がいないと連絡が入り、みんなで探していると体育館に置いてあったマットレスの所で寝ていたというエピソードも懐かしい思い出です。平成16年ごろから中を仕切り、いくつかの部屋を作ってスペースを確保して主に札幌報恩学園の3ブロックで利用をしてきました。

設計屋さんに、もしこの建物を『もう50年もたせたい』と言え、『可能な建物だと思う』と言うのではないかと思います。しかし、老朽化を考えると利用者の方々の安心安全を優先し、次のことを考えなければならないという事です。諸事情があって、壊さざるをえなくなってきたので、私の気持ちとしては『君のせいじゃないよ』『今までみんなを育ててくれてありがとうございます』と言ってあげたいです。

- ◆ いよいよ、もの（建物）がなくなってしまうので、とても残念、惜しい気がします。みんなと学んだ時間があるから今の自分があり、その記憶を忘れることはありません。
- ◆ 体育館を取り壊した後は、3階建ての建物を予定しております。1階は「子育て支援スペース」と「地域交流スペース」です。子育ての悩みを一人で抱えないように、親同士が繋がれる場所であったり、親子でのんびりできる場所であったりと親しみやすい雰囲気を作りたいと思います。

- ◆ また、地域の皆様や保護者の皆様、利用者の方々の皆様もぶらっと立ち寄れる場所、お茶が飲める場所、こころが元気になれる場所としてのスペースをご用意したいと思っております。2階は今まで通り、利用者の方々が日々日中活動のできる安心安全なスペースにいたします。3階は事務所として倉庫、会議室も用意して法人運営を強化してまいります。

- ◆ 長い年月でシンボルのような建物が一つひとつと消え、世代が変わりながら未来に向かって一つひとつまた生まれていく。

- ◆ 法人は今年創立100周年を迎えます。法人が今まで強みとして続けてきたこと、これから未来に向けて発信続けること、「つながるこころ」を大切に、福祉活動推進の一つの歯車として、皆さまに信頼される、地域福祉の活動拠点でありたいと願っております。

法人事務局長 村田 英男

